

スペイン語スペイン文学科 4年 <sup>えびはら ほなみ</sup> 蛸原 帆奈海 さん

——今年が学生生活最後の年になりますが、これまでの大学での学びを振り返ってみて、いかがでしたか。

私は、高校の時に出会った大好きなスペイン語を極めようという目標を持って清泉に入学しました。どの授業も新しい発見に満ちていて、毎日楽しく過ごしています。特に、ガルシア・ロルカの作品を上演した、3年次のモヤノ先生の演劇の授業では、スペイン語の音や独特な文化の魅力に改めて気づき、多くの学びを得ることができました。今年度履修している「ゼミナール」では、教授法の変遷やそれぞれの特徴を学び、多角的な視点から効果的な外国語学習について研究しています。

また、スペイン語スペイン文学科が主催する、ネイティブスピーカーによるスペイン語会話特別クラス ¡Hablemos! にも毎週参加し、2年次に挑戦した弁論大会では、全国入賞を果たすなど、授業外でも語学力向上に励んできました。

——本奨学金をどのように活用したいと考えていますか。また、今後の目標についても聞かせてください。

今回いただいたご支援は、検定試験の受験料や参考書代だけでなく、スペイン語を通して世の中に貢献できる人材となることを目指し、自らの見聞を広めるためにも活用させていただこうと考えています。

今後は、地元で教員になることを目標に、引き続き知識を深め

るとともに、どのように学ぶか／教えるかに焦点を当てて学修に取り組んでいきたいと思っています。

——課外活動で取り組まれていることについても教えてください。

2年次から、教育系のNPO法人でインターンシップ活動をしています。高校生の探究学習支援やコミュニティづくりの他、昨年、新型コロナのために小中高が臨時休校となった期間を利用して、小学生向けにZoomでスペイン語講座などを行なってきました。

「人と向き合うこと」の難しさに悩むこともありますが、ゼミや教職課程の授業で学んだことを活かせる場面もあり、より学びと経験を深めることができています。

——最後に、後輩たちに向けて、チャレンジしておいた方が良いと思うことや学生生活におけるアドバイスなど、エールをお願いします。

私自身、コロナ禍で気持ちが塞ぎ込んでしまうことが多く、机に向かえない日もありましたが、「奨学金をくださった皆様のご期待に添えるよう頑張りたい」と、新たに心に火が灯るきっかけとなりました。発展協力会会員の皆様のご支援に心から感謝申し上げます。今後も清泉女子大学の一員としてより一層精進してまいります。



2019年全国スペイン語弁論大会（於：天理大学）での1枚。観光公害をテーマにスピーチを行いました。



2020年「スペイン語演習2」（担当：モヤノ先生）でのLa casa de Bernarda Alba上演後の集合写真（後列左端が蛸原さん）